

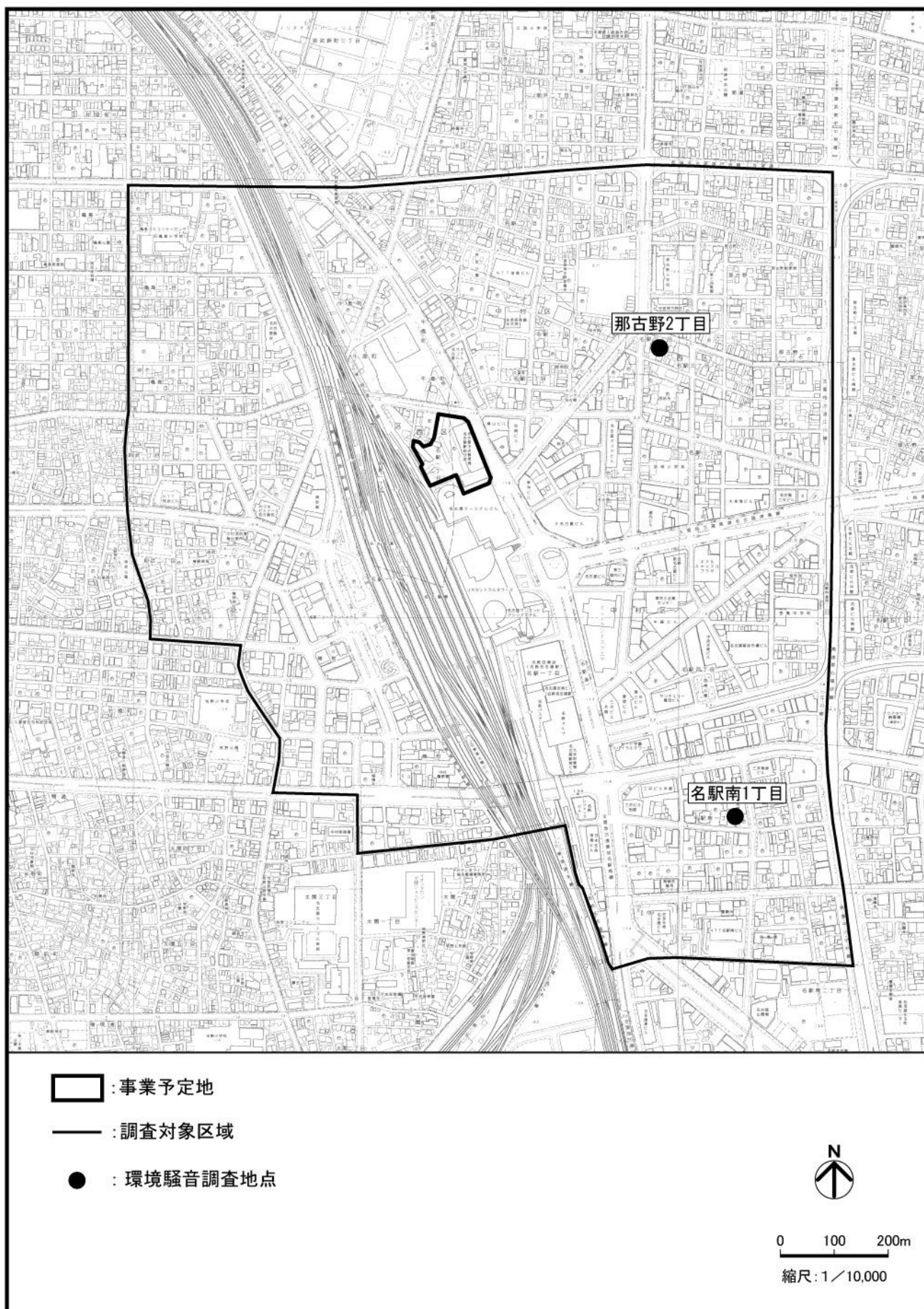


図 4-2-4 環境騒音調査地点

2) 道路交通騒音

調査対象区域及びその周辺における平成 15 年度の道路交通騒音調査路線は図 4-2-6 に、調査結果は表 4-2-9 に示すとおりである。これによると、昼間の等価騒音レベル (L_{Aeq}) は 67～70dB、夜間は 62～68dB の範囲にある。

また、調査対象区域における道路交通騒音に係る環境基準の面的評価結果は、表 4-2-10 に示すとおりであり、昼夜間ともに環境基準を達成した割合は、61～100%の範囲にある。

出典)「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編 (平成 15 年度)」(名古屋市, 平成 17 年)
「平成 19 年版 名古屋市環境白書」(名古屋市, 平成 19 年)

表 4-2-9 道路交通騒音調査結果

路 線 名	測定地点の住所	等価騒音レベル (L_{Aeq}) (dB)		交 通 量(台)		大型車 混入率
		昼 間	夜 間	小型車	大型車	
高速名古屋新宝線	中村区名駅南2丁目	68	66	455	88	16%
県道中川中村線		70	68	329	61	16%
市道椿町線	中村区椿町	67	62	239	17	7%

注)1: 昼間は6時から22時まで、夜間は22時から翌日の6時までである。

2: 交通量は、昼間10分間における台数である。

表 4-2-10 道路交通騒音に係る環境基準の面的評価結果

評価対象路線名	測定区間の住所		評価対象 住居等 (戸)	面的評価結果				
	始 点	終 点		達成戸数 (昼夜間)	達成戸数 (昼間)	達成戸数 (夜間)	非達成戸数 (昼夜間)	達成率 (昼夜間)
高速名古屋新宝線 県道中川中村線	中川区 山王1丁目	中村区 名駅4丁目	885	543	234	0	108	61%
県道名古屋津島線	中村区 名駅南1丁目	中村区 太閤通	486	398	66	0	22	82%
市道椿町線	中村区 亀島1丁目	中村区 椿町	131	131	0	0	0	100%

注) 面的評価結果は以下のとおりである。

- ・達成戸数(昼夜間) : 昼夜間とも環境基準を達成した住居等の戸数
- ・達成戸数(昼間) : 昼間のみ
- ・達成戸数(夜間) : 夜間のみ
- ・非達成戸数(昼夜間) : 昼夜間とも環境基準非達成の住居等の戸数

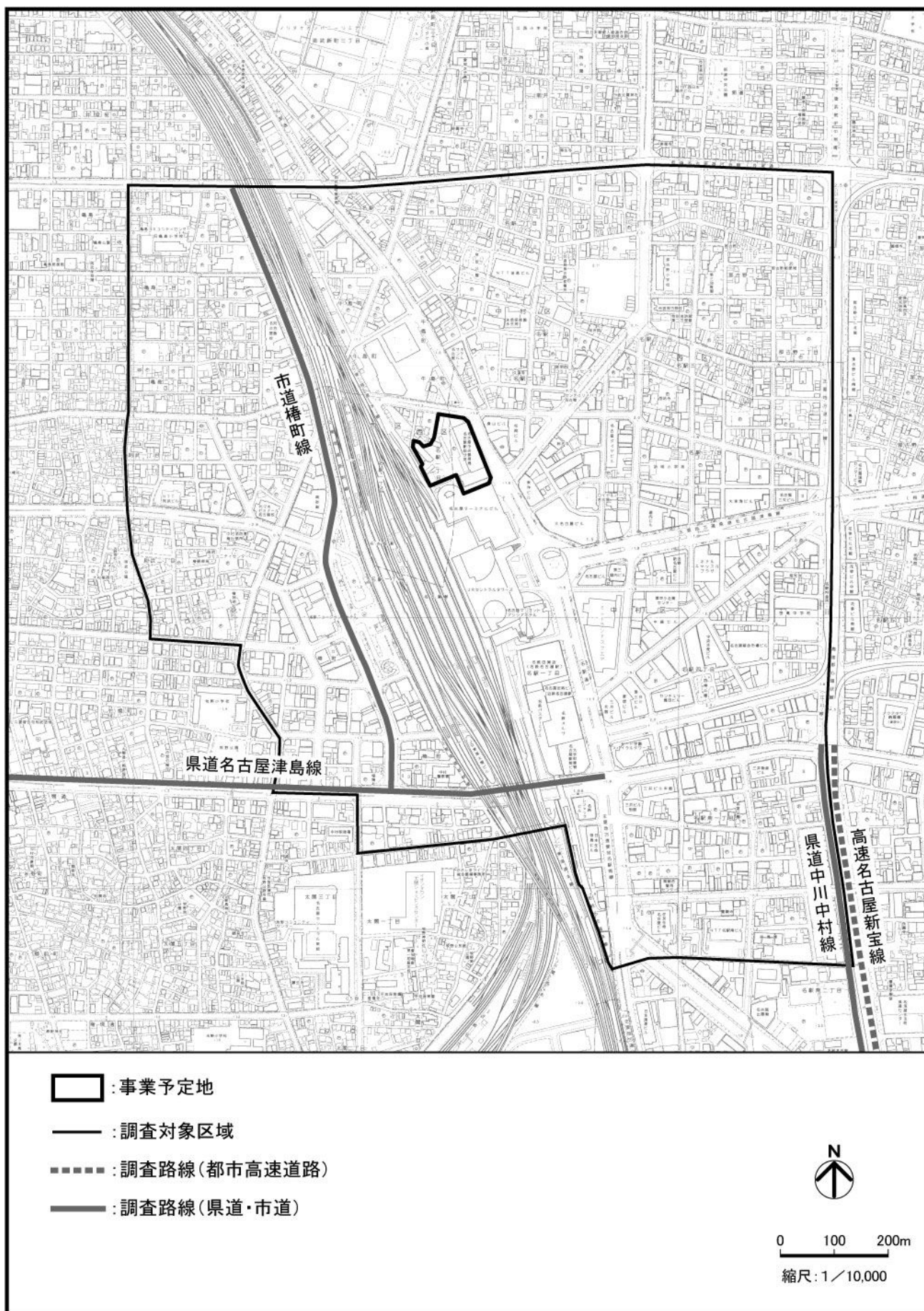


図 4-2-6 道路交通騒音・振動調査路線図

④ 振 動

調査対象区域及びその周辺における平成 15 年度の道路交通振動調査路線は前掲図 4-2-6 に、調査結果は表 4-2-11 に示すとおりである。これによると、振動レベル（ L_{10} ）は 44 ～48dB である。

出典）「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編（平成 15 年度）」（名古屋市，平成 17 年）

表 4-2-11 道路交通振動調査結果

路 線 名	測定地点の住所	振動レベル(L_{10}) (dB)	交 通 量 (台)		大型車 混入率
			小型車	大型車	
県道中川中村線	中村区名駅南2丁目	44	329	61	16%
市道愛知名駅南線	中川区福住町	48	363	31	8%
市道椿町線	中村区椿町	47	239	17	7%

注)1:振動レベルは、昼間10分間における80%レンジの上端値である。

2:交通量は、昼間10分間における台数である。

⑤ 悪 臭

平成 18 年度の名古屋市における悪臭に関する苦情処理件数は 510 件あり、公害苦情処理件数総数 2,309 件の約 22%を占めている。また、中村区では総数 146 件のうち 26 件(約 18%)、西区では総数 122 件のうち 33 件(約 27%)が、悪臭に関する苦情処理件数となっている。

出典）「平成 19 年版 名古屋市環境白書」（名古屋市，平成 19 年）

⑥ 温室効果ガス等

名古屋市における平成 16 年の部門別二酸化炭素排出量は、図 4-2-7 に示すとおりである。これによると、最も多いのは運輸の 31%、次いで産業及び業務の 24%、家庭の 18% の順となっており、これら部門の合計で 97%を占めている。

また、二酸化炭素及びフロン測定を行っている測定局は調査対象区域にはなく、二酸化炭素については、市内 2 局（天白区及び中区（平成 19 年 1 月から））、フロンについても 2 局（南区及び名東区）であり、これらの測定結果は、図 4-2-8 及び図 4-2-9 に示すとおりである。これによると、フロン濃度は減少している一方で、二酸化炭素濃度は年々増加している。なお、フロンの測定は、平成 16 年度以降実施されていない。

出典)「平成 19 年版 名古屋市環境白書」(名古屋市, 平成 19 年)
「平成 15 年度 大気環境調査報告書」(名古屋市, 平成 17 年)
「平成 18 年度 大気環境調査報告書」(名古屋市, 平成 19 年)

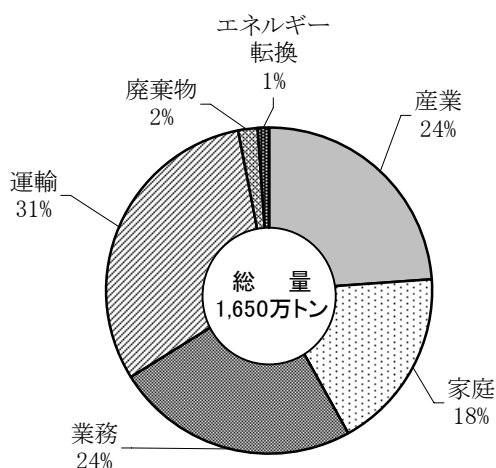


図 4-2-7 部門別二酸化炭素排出量

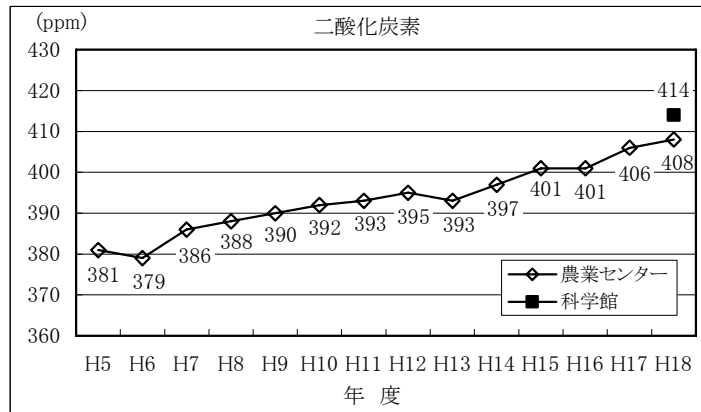


図 4-2-8 二酸化炭素年平均値の推移

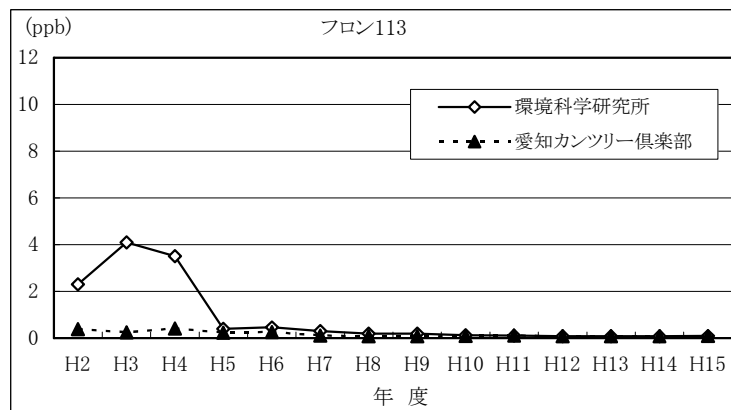
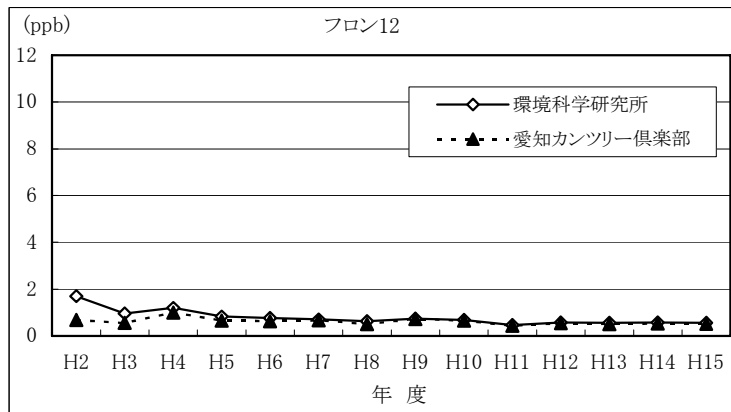
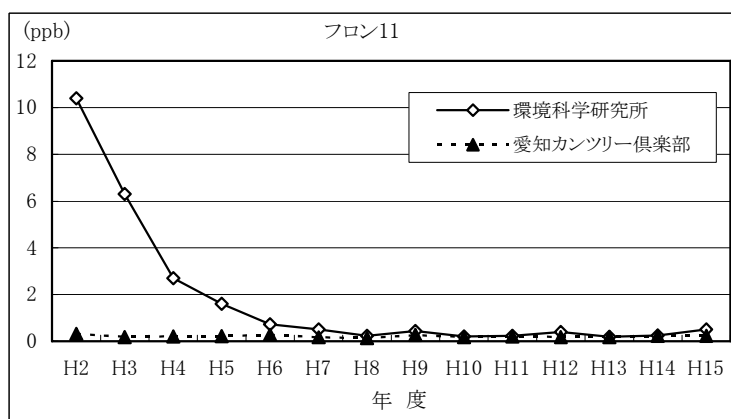


図 4-2-9 フロン年平均値の推移

(4) 動植物及び生態系の状況

① 動 物

調査対象区域は、市街地や住宅等が大半を占め、人為的影響を強く受けた環境となっており、一部のネズミ類、昆虫類等を除き、野生動物の生息に適した環境とはなっていない。

また、名古屋駅前地区のビル及び地下街の管理者が、名古屋市へ報告しているネズミ並びにゴキブリの捕獲状況は、表 4-2-12 に示すとおりである。これによると、ネズミの捕獲頭数は、地下街と接合したビルに 14 個体と最も多く、ゴキブリは、地下街と接合していない独立したビルに 4,425 個体と最も多くなっている。

出典)「平成 15 年度 環境衛生調査成績 (No.34)」(名古屋市, 平成 17 年)

表 4-2-12 ネズミ及びゴキブリの捕獲状況

場 所	ネズミの捕獲頭数(個体)	ゴキブリの捕獲頭数(個体)
地下街	5	702
接合ビル	14	2,860
独立ビル	2	4,425
合 計	21	7,987

注)接合ビル:地下街と接合したビル

独立ビル:地下街と接合していない独立したビル

② 植 物

調査対象区域は市街地で、人為的影響を強く受けた環境となっており、注目される植生は確認されていない。

出典)「第 2-5 回植生調査重ね合わせ植生」(環境省ホームページ)

③ 生態系

調査対象区域は、人為的影響を強く受けた環境となっており、注目される生態系は確認されていない。

④ 緑 地

調査対象区域における緑地は、公園等に小規模に散在している程度である。

(5) 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

① 景 観

調査対象区域は、市街化された地域であり、特筆すべき自然景観は存在しない。

事業予定地の位置する名古屋駅周辺は、駅前広場、桜通、名駅通をはじめとして、新しい都市景観の整備が実施され、JR セントラルタワーズ、ミッドランドスクエア、名古屋ルーセントタワー等が建ち並び、名古屋市の玄関口としての都市景観が形成されつつある。

② 人と自然との触れ合いの活動の場

調査対象区域は、市街化された区域であり、自然的な環境はほとんど残っておらず、人と自然との触れ合いの活動の場は存在しない。